

# 東燃ゼネラル石油株式会社

## 2009年12月期第2四半期決算説明会

---

2009年8月17日  
東証アローズ



### 見通しに関する注意事項

この資料に記載されている当社および当社グループ各社の現在の計画、見通しに関する事項は、日本および世界経済の動向、原油価格、円ドルの為替レート、需給の変動に大きく左右される業界の競争状況などにより影響を受けます。これらの影響により、実際の業績は本資料で記載した見通しとは大きく異なる可能性があることにご留意ください。

- 事業概況

鈴木 一夫

- 2009年12月期第2四半期決算概要  
および通期業績予想の修正

W. J. ボガティ

- 質疑応答

# 事業概況

---

鈴木 一夫

東燃ゼネラル石油(株)  
代表取締役 社長

# 事業環境の動向 (1)



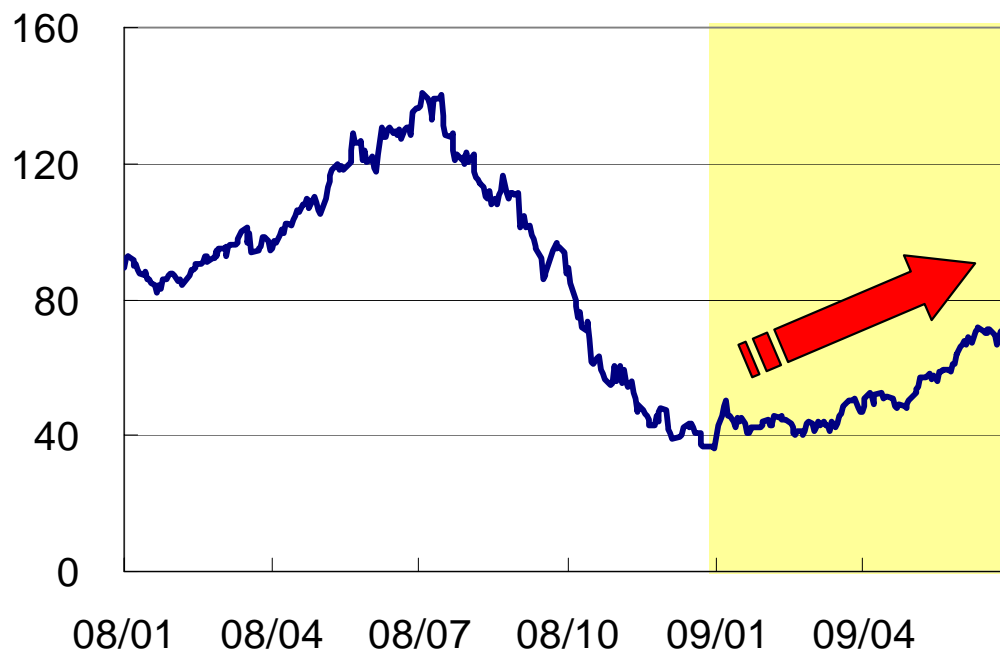
## ■ 原油価格の上昇

- » 6月の平均ドバイ原油価格は、昨年12月末比1バレル当たり約33ドルの上昇
  - 当社の会計方法では、他社に比較し収益の悪化要因(特に第2四半期)

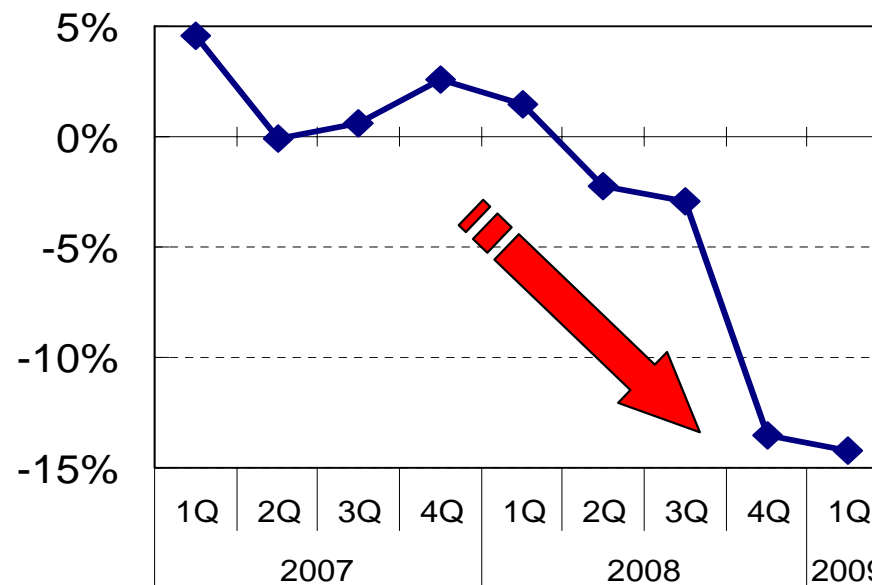
## ■ 継続する国内景気の低迷

- » 実質GDPは、昨年第4四半期に続き、本年第1四半期も年率二桁の大幅な落ち込み

原油価格(ドバイ、ドル/バレル)



実質GDP(前期比、年率%)



出典: プラッツデータ

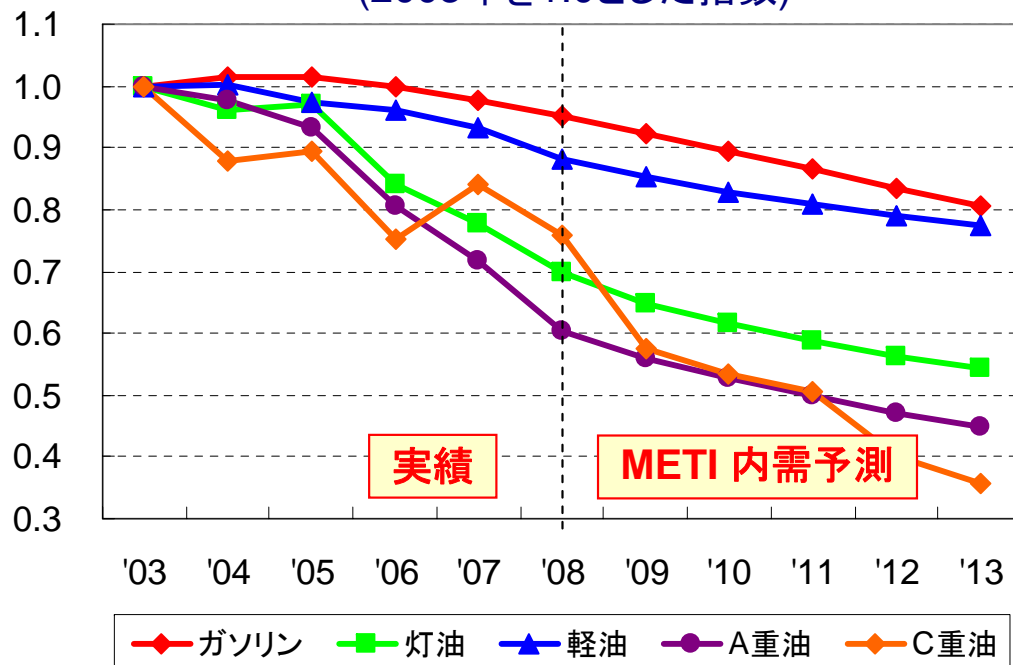
出典: 内閣府統計資料

# 事業環境の動向 (2)

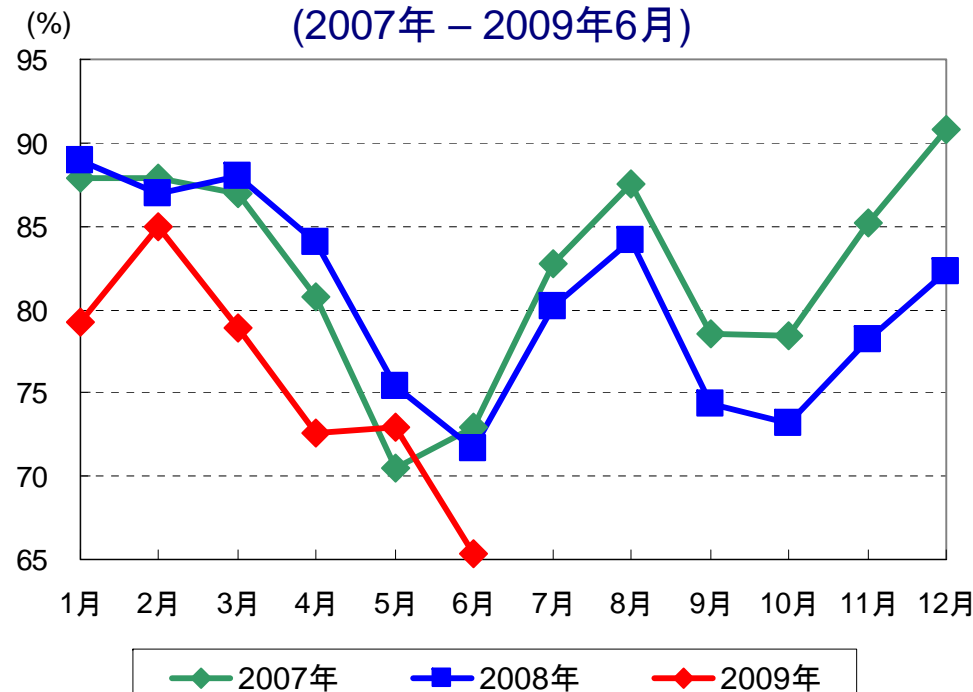


- 国内石油製品需要は減少傾向が継続
  - ▶ 2013年度予想: 2008年度比16%の減少 (経済産業省の5カ年需要予測)
  - ▶ 2009年1-6月実績: 前年同期比11%の減少 (予測を上回る減少スピード)
- 原油処理量・設備稼働率の低下
  - ▶ 設備余剰問題の顕在化
- 石油化学製品部門の製品需要・市況は徐々に改善の兆し

国内石油製品需要  
(2003年を1.0とした指数)



月別製油所稼働率の推移(%)  
(2007年 - 2009年6月)



出典: 経済産業省「資源エネルギー統計」

長期ビジョンに基づく一貫性のある企業活動:

- 日本の石油業界、世界のエクソンモービル・グループの中で「卓越した地位」を築く  
    < コアビジネスへの集中 >

経営基本方針:

## ■ 完璧な操業の継続

- » 安全: “Nobody gets hurt” 「誰も怪我をしない、させない」
- » 環境保全: “Protect Tomorrow, Today.” 「明日の環境は、今日守る」
  - 気候変動問題への対策
- » 効果的な内部統制
- » コーポレートガバナンスと企業倫理

## ■ 効率性の追求と企業業績の向上

- » 各事業部門の強みを活かしつつ、有機的に連携させ、全社的な効率性と収益性を追求
- » 資産の効率的活用

## ■ 株主価値の増大

- » 長期的視点に立ち、事業投資と株主利益還元を最適化することで株主価値を増大させる

厳しい事業環境の下、着実な自助努力 (Self-help) が一層重要に

# 完璧な操業の継続: 気候変動問題への対策

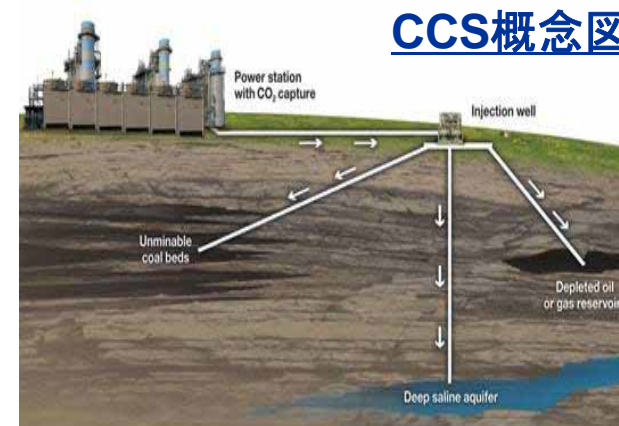


## 温室効果ガス(GHG)削減について - 当社およびエクソンモービルの主張

- GHGコストは透明性を持ち、均一かつ想定可能なものであること
  - » 長期的視点からGHG削減のための投資等につき適切な判断を下すため
- 削減策は、科学的な根拠に基づき、真に効果を有するものであるべき
- 複雑な管理を要する制度や画一的な規制は避けるべき

## エクソンモービル・グループとしての取り組み

- グループ内での研究開発
  - » CCSの研究/ 燃費改善に繋がる潤滑油の開発
  - » ガス化(石炭・バイオマス原料)技術の研究 等
- 第三者機関との共同研究
  - » スタンフォード大学のプロジェクト(GCEP)への参加
  - » SGIと共同で次世代バイオ燃料の開発

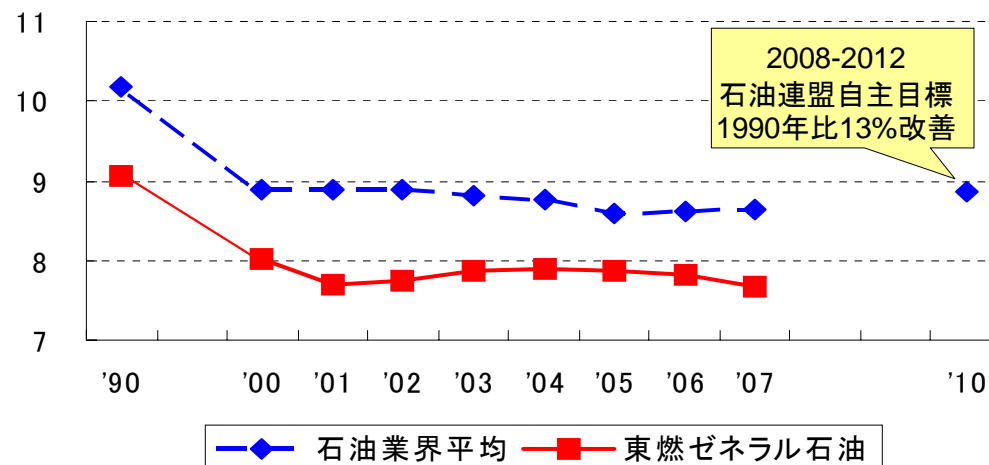


## 当社独自の対策

- 省エネ、エネルギー効率向上
  - » 当社の最も得意とし、最も成果が確実
  - » 工場でのエネルギー消費原単位は、絶対レベルでも改善率でも、業界でトップレベル
- 効率的な二次電池の開発に貢献
  - » リチウムイオン電池に使用するバッテリーセパレーターフィルムの製造

## エネルギー消費原単位

原油換算エネルギー使用量(KL) / 常圧蒸留装置換算通油量(千KL)



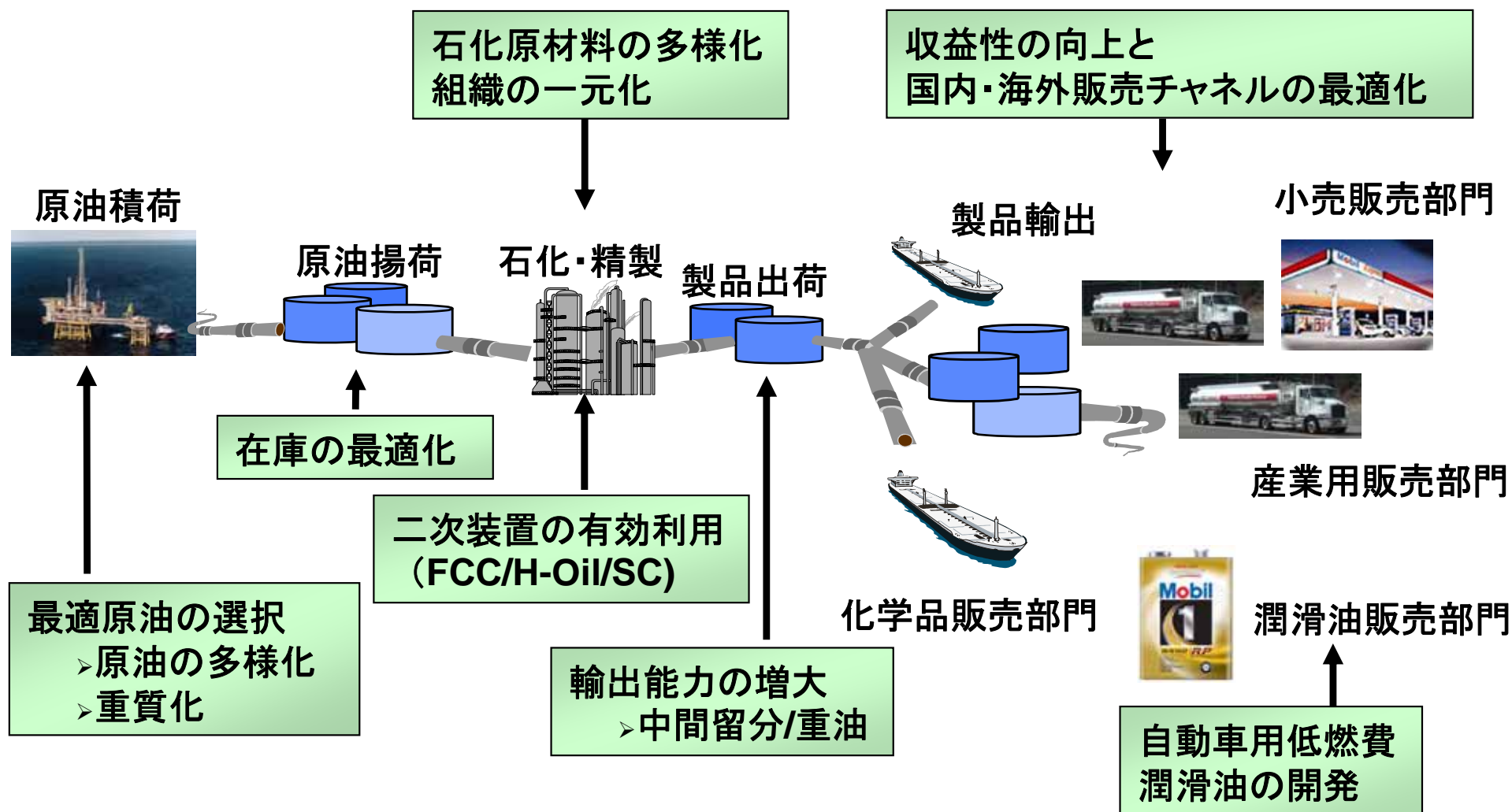
# 効率性の追求と企業業績の向上



TonenGeneral

## ■ エクソンモービル・グループとしての統合力強化

- » 原材料調達・製品供給・販売ルート最適化
- » 石油・石化相乗効果の最大化
- » 資産の効果的活用



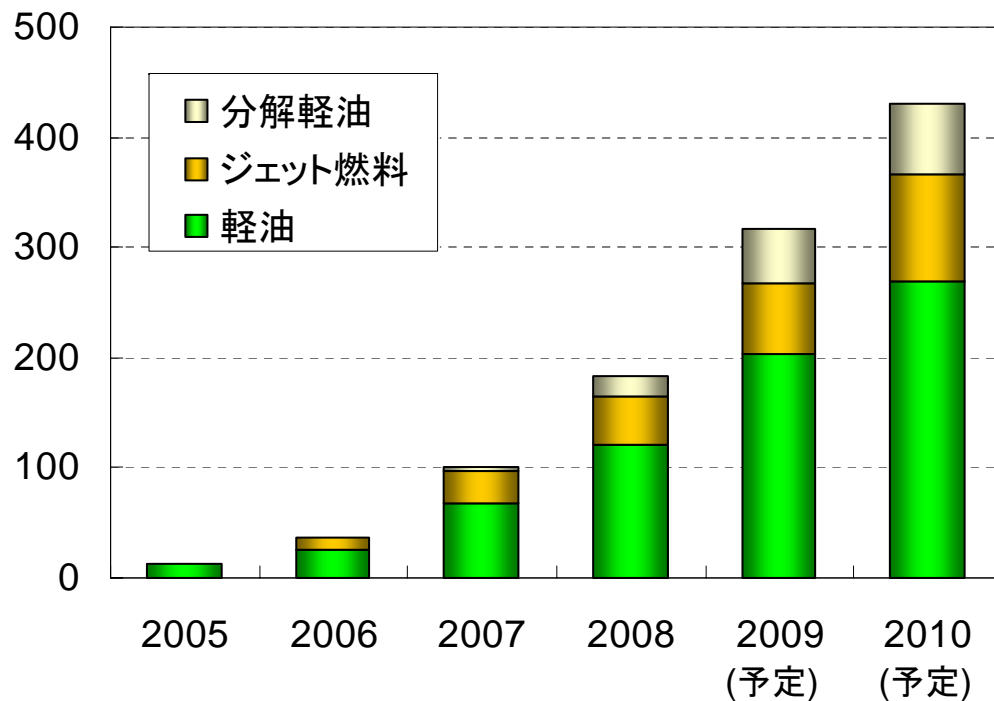


# 効率性の追求と企業業績の向上: 2009年の取組み(1)

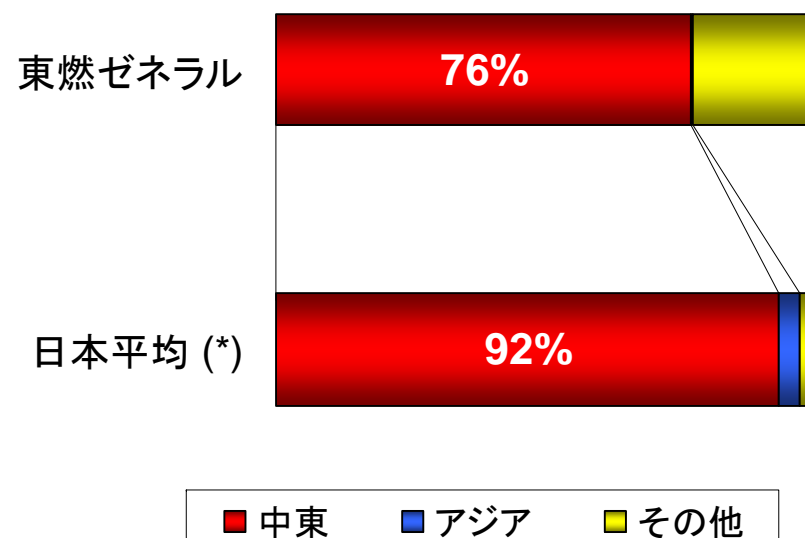


- 輸出設備の充実により、中間留分を中心とした輸出を拡大
  - » 製品輸出は国内販売と同じく重要な販売チャネル
  - » 二次設備の最大活用
- 国内外の環境変化を踏まえた最も効率的な原材料の調達
  - » エクソンモービル・グループの世界規模でのネットワークの活用
    - 原油の多様化

輸出能力増強の推移 (中間留分)  
(2007年を100とした指数)



地域別原油輸入  
(2009年1-6月、%)



(\*) 東燃ゼネラルを除く

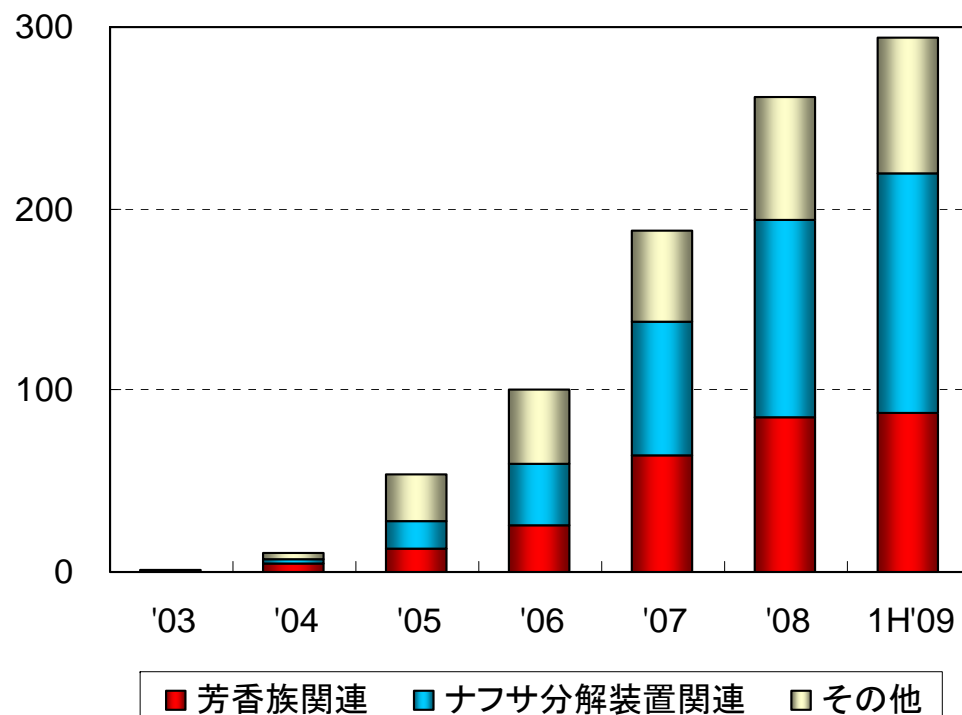
## ■ 石油精製・石油化学の相乗効果の最大化

- » 原材料の多様化 - C4留分のナフサ分解装置での活用
- » 芳香族製品(BTX)の最大生産 - 芳香族留分の最大回収/触媒の最適化
- » 組織の一体化

## ■ 特殊化学製品分野の拡大

- » 韓国でのバッテリーセパレーターフィルム事業の推進

石油精製・石油化学相乗効果  
(累計金額、2006年を100とした指数)



バッテリーセパレーターフィルム工場の建設  
(韓国亀尾市)



# 効率性の追求と企業業績の向上: 2009年の取組み(3)



## ■ 「エクスプレス」ブランドのさらなる強化

» 顧客満足度の高いサービスとプログラムの充実

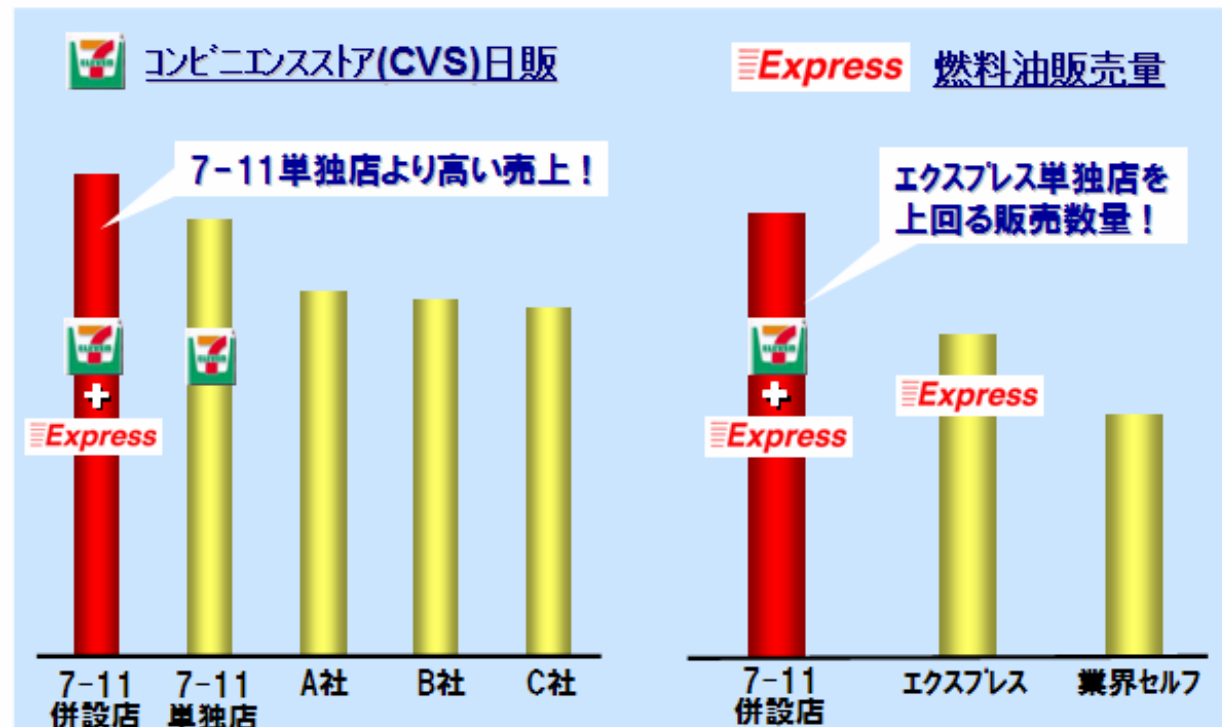
- スピードパス・ビデオポンプ・併設店舗の推進

## ■ セブン-イレブン併設エクスプレスの全国展開を開始

» 単独店舗に比べ、セルフSS・コンビニエンスストア両者において大きな相乗効果

- 販売数量・コンビニエンスストア売上・運営コストにおいて強い競争優位性

### 併設店舗のメリット – 売上



# 株主価値の増大



## ■ 基本原則

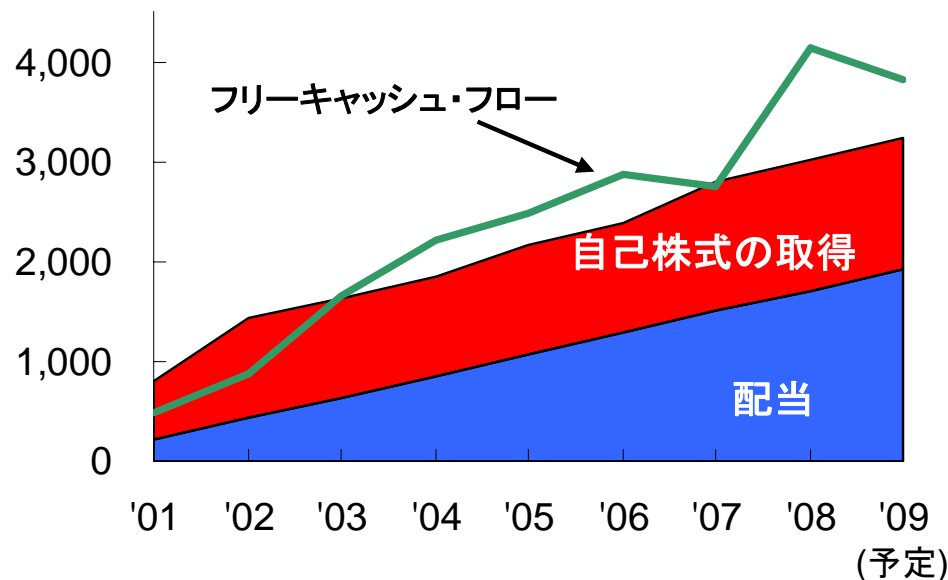
- » 株主還元重視
- » 投資による長期的な株主価値増大と、株主還元の最適バランス
- » 安定的な配当水準の維持

## ■ 2009年の配当

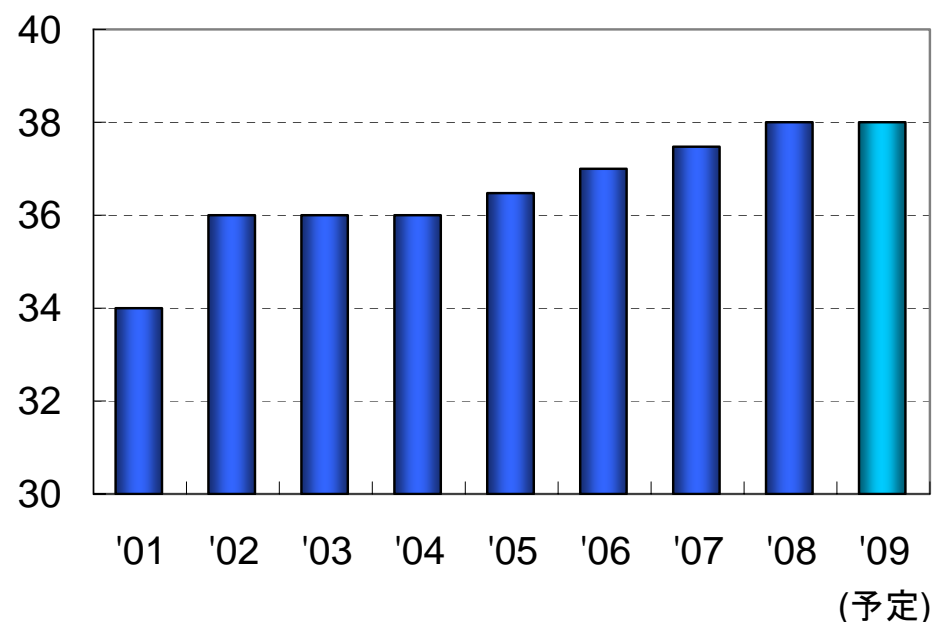
- » 年間配当は一株当たり38円 (前期と同額) を予定

### フリーキャッシュ・フローと株主還元

(累計、億円)



### 配当金の推移 (一株当たり、円)



経営環境は変化しても、当社の株主還元に関する基本方針に変わりはありません

# 2009年12月期第2四半期決算概要 および通期業績予想の修正

---

W. J. ボガティ

東燃ゼネラル石油(株)  
代表取締役 常務取締役

エクソンモービル(有)  
代表取締役 社長

# 決算ハイライト



- 2009年1-6月期の営業利益は前年同期比85億円の減少
- 在庫関連利益および原油コストの認識時点の差による影響額を調整すると、2009年1-6月期の調整後営業利益は前年同期比ほぼ同水準
  - » 石油化学部門利益の減少を2009年1-3月期の石油部門の高いマージンで相殺

(億円)	'08 1-6月期	'09 1-6月期	増減
売上高	16,926	<b>9,646</b>	-7,280
営業利益	-23	<b>-109</b>	-85
経常利益	38	<b>-107</b>	-145
特別損益	56	<b>-9</b>	-65
当期純利益	59	<b>-64</b>	-123
<hr/>			
在庫関連利益の調整	-196	<b>-72</b>	124
原油コストの認識時点の差による影響額の調整	385	<b>330</b>	-55
<b>調整後営業利益</b>	<b>165</b>	<b>149</b>	<b>-16</b>
石油部門 他	-14	<b>151</b>	165
石油化学部門	179	<b>-2</b>	-181

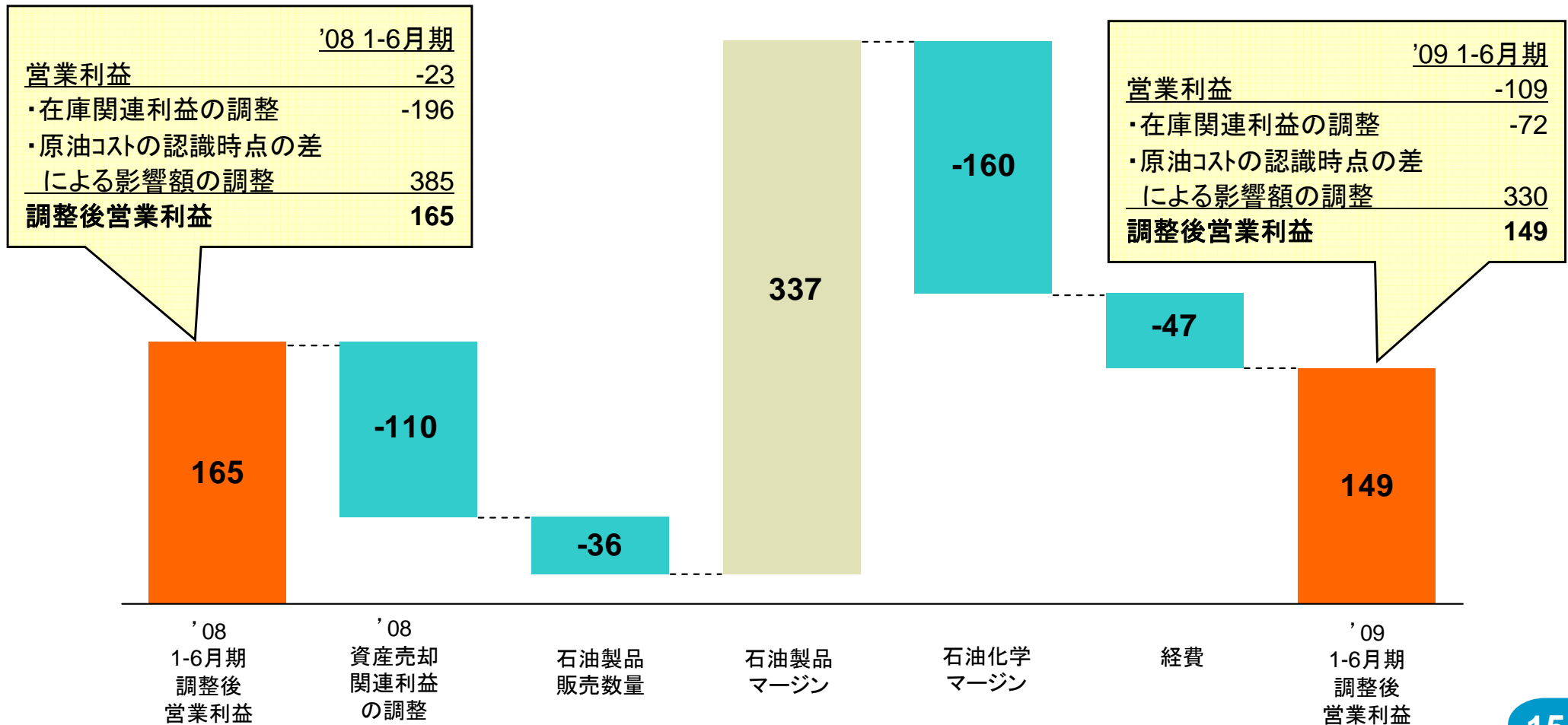
- 前年同期と比べ原油価格が低水準で推移したことにより売上高は43%の減少
- 当期において特記すべき営業外および特別損益はなし

# 営業利益増減の要因分析

## [1-6月期連結営業利益、前年同期比]

- 石油部門の調整後営業利益は、特に2009年1-3月期に見られた高水準の国内マージンに支えられ、大幅に回復
- 石油化学部門の営業利益は、低水準のマージンおよび販売数量の減少により、一般的な業界の傾向と同様に悪化。2009年4-6月期は、1-3月期に比べ改善の兆し

(億円)



# 販売数量/稼働率

- 当期の中間留分国内販売数量は、国内の需要動向を反映して、前年同期比で減少
- 輸出チャンネルに引き続き注力
  - » 中間留分(ジェット燃料、灯油、軽油、A重油)の輸出は前年同期比20%の増加
- オレフィン類の販売数量は、第1四半期の需要低迷を反映して、前年同期比で減少  
 芳香族製品の販売数量は、堺工場での定期修理(本年5/6月)などに伴い、前年同期比で減少

石油製品*		'08 1-6月期	'09 1-6月期	増減	国内全体 増減****
(千KL)					
日本国内での販売	ガソリン	4,969	5,168	+4.0%	-2.1%
	灯油	1,670	1,522	-8.9%	-8.7%
	軽油	1,527	1,428	-6.5%	-8.5%
	A重油	1,315	1,033	-21.5%	-18.6%
	C重油	901	716	-20.5%	-28.5%
	主要5油種合計	10,381	9,866	-5.0%	-10.9%
	LPG その他	1,365	1,255	-8.1%	
	小計	11,745	11,121	-5.3%	
	輸出**	2,342	2,683	+14.6%	
	その他***	2,380	1,670	-29.8%	
石油製品合計	16,467	15,474	-6.0%		

注記:  
 \* 連結ベース、バーターを除く  
 \*\* 保税販売を除く  
 \*\*\* 潤滑油、原油、国内のエクソンモービルグループ内の転送取引などを  
 含む  
 \*\*\*\* 出典: 経済産業省「資源エネルギー統計」

石油化学製品 (連結ベース)				
(千トン)				
オレフィン類他 (東燃化学分)	927	791	-14.7%	
芳香族類他 (東燃ゼネラル石油分)	432	395	-8.6%	
石油化学製品合計	1,360	1,185	-12.8%	

設備稼働率(常圧蒸留装置ベース)      72%      76%      75%

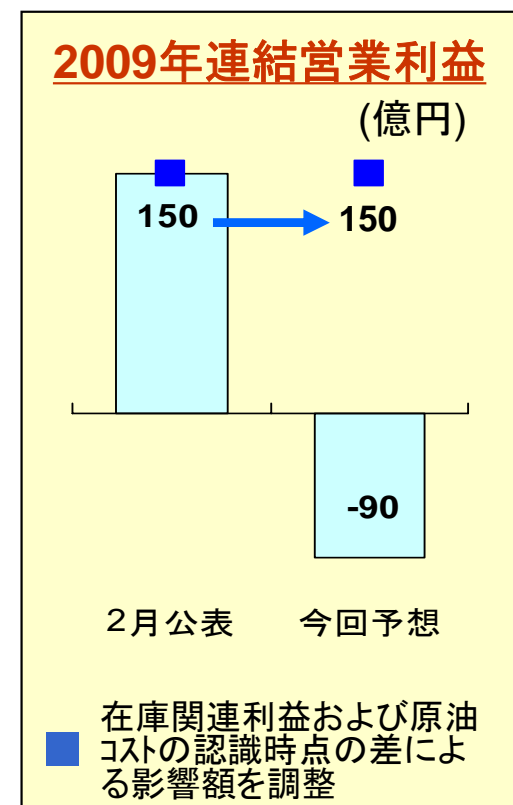


# 業績予想の修正 [連結]



- 在庫関連利益および原油コストの認識時点の差による影響額を除いた営業利益は、2月に公表した当初の予想(150億円)から変更なし
- 今回の通期業績予想には、当初予想に含まれていなかった、期中における原油価格の上昇に伴う原油コストの認識時点の差によるマイナスの影響額270億円と在庫関連利益30億円を見込む
- 1株あたり年間38円の配当見通しは変更なし

(億円)	2008年	2009年予想 (*)	
	実績	2月公表	今回予想
売上高	32,724	23,000	21,000
営業利益	1,217	150	-90
経常利益	1,313	160	-80
特別損益	24	-20	-20
当期純利益	793	90	-50
<hr/>			
在庫関連利益の調整	-141	0	-30
原油コストの認識時点の差による影響額の調整	-740	0	270
<b>調整後営業利益</b>	<b>337</b>	<b>150</b>	<b>150</b>
石油部門 他	198	100	100
石油化学部門	139	50	50



(\*) 64.8ドル/バレル (ドバイ)  
94.5 円/ドル  
<2009年7月平均>



# キャッシュ・フロー、借入、資本 [連結]

(億円)

'09 1-6月期

## 営業活動 / 投資活動

税引前純利益	-116
設備投資額/減価償却費/資産売却却 たな卸資産	23
売掛金/買掛金/未払揮発油税等	17
法人税等の支払	266
その他	-396
	76

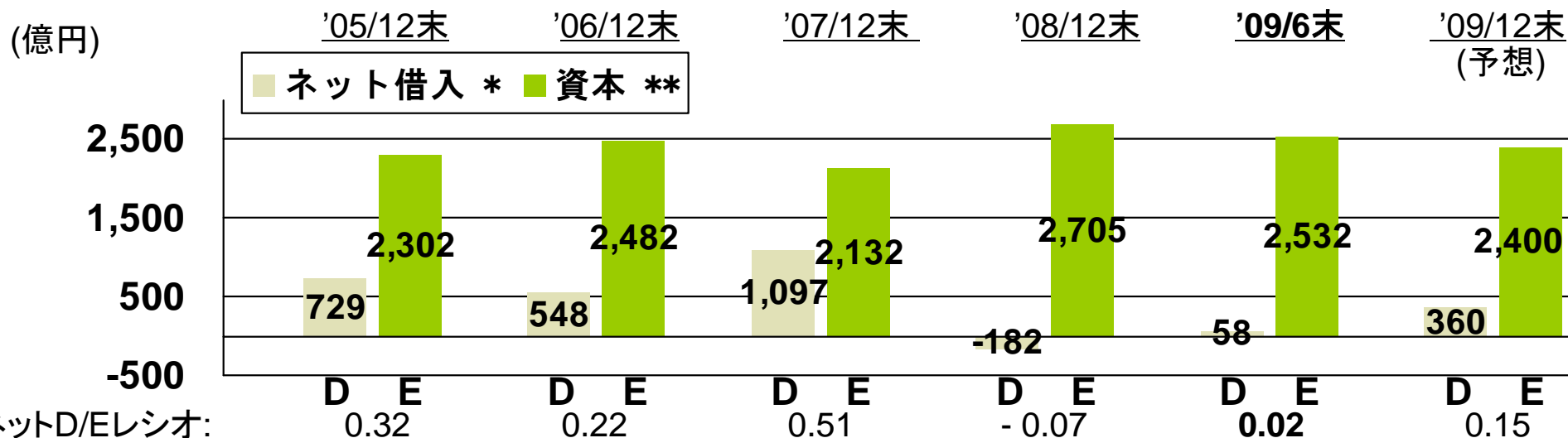
## 財務活動

借入金が増(減)	240
配当金の支払額	-107
その他	-1

## 現預金の増減

**-130**  
**132**  
**1**

- 主に2009年1-6月期の損失および2008年度利益に伴う法人税支払により借入金が増加
- 強固な財務状態を維持
- 2009年末のネットD/Eレシオは15%の見込み



ネットD/Eレシオ:

\* 現預金・貸付金等の影響を除いた借入金

\*\* 少数株主持分を除く純資本

## 補足資料

---

# 営業利益増減の要因分析

## ['09 4-6月期連結営業利益、'09 1-3月期比]

- 調整後石油部門営業利益は悪化、中間留分のマージンが1-3月期に比べ低調
- 主にオレフィン類および特殊化学品の販売数量の回復および芳香族類のマージン改善により、石油化学品の営業利益は回復

(億円)

